

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十八年十一月度 入選句（投稿総数三千四百二十一句・小中学投句数二千五百九十九句）

特選

本陣へつづく歩道に落ち葉まう 大垣市 齋藤 優衣(小五)

大垣は戸田氏十万石の城下町。江戸時代には本陣を中心にして多くの旅籠や店が軒を連ね、大層賑わっていたことでしょう。また、秋になれば落ち葉が無い、道行く人々も近づく冬を身近に感じていたに違いないありません。

作者もそんな本陣へと続く道に立ち、しばしの間タイムスリップしていたのでしょうか。旅人の一人になって佇んでいたのかもしれませんが。

時代が変わっても人の思いは変わりません。変わるものと変わらぬもの。芭蕉の心に通じる一句になりました。

運動会 父母弟見に来てる 大垣市 聚岳 美結(小三)

運動会は家族総出で見学するものです。ですから、お父さんやお母さんはもちろん、お祖父さんからお祖母さん、弟や妹までみんなで応援です。

作者は三年生。せつかく弟が来ているのです。お兄さんお姉さんとしては、いいところを見せたい。益々張り切るわけです。

家族が頑張っている姿をみんなで応援する。うまくいかななくても、一生懸命に取り組む所に値打ちがあります。作者のひたむきに取り組もうとする姿が思い浮かびます。

コスモスや女子を名字で呼ぶ男子 大垣市 浅野 洸(太中二)

「けんちゃん」「ちやこちゃん」などと呼び合っていた小学校時代。それを卒業して「おい、山田さん」なに、佐藤さん」と呼ぶようになった中学時代。相手の存在を少しずつ意識するようになってきたのでしょうか。

名前を呼ぶのにもどこか抵抗感のある不思議な時代の心の動きを、「コスモスや」で代弁しています。風に揺れるコスモスのたおやかな姿。折れそうで折れない強さ。色とりどりのコスモスの花に、お互いを思いやる優しさを感じます。

秀逸

くりごはんかぞえてしまいくりのかず 大垣市 松岡 大治(小一)

ささの葉も舟もゆらすよ秋の風 大垣市 石黒 巧晟(小四)

くりひろいとげがささるよくりわらう 大垣市 和田 結愛(小四)

堂々と特大鯛が泳ぐ空 大垣市 周山 さら(中一)

夕暮れに芒が揺れて寂しくて 美濃加茂市 山田 昇吾(中三)

とんぼ追う父の笑顔は同い年 大垣市 山田 優杏(小四)

きょうりゆがうごいてびっくり秋まつり 大垣市 おくだ そうや(小二)

くりきんとんじゅくした秋の味がする 大垣市 小林 昂汰(小五)

金木犀秋の香りと母語る 大垣市 廣瀬 香音(小六)

友達と遊んで気が付く秋の暮 大垣市 川瀬 唯華(小六)

入選

みをまもるにんじやのようなばったさん 大垣市 あかし さわ(小二)
 かえりみちこのいいにおいさんまだな 大垣市 かわい りようね(小三)
 運動会負けて見上げたくもり空 大垣市 福井 花菜(小六)
 消しゴムの小ささ感じる月の夜 大垣市 後藤 伶生(中二)
 水たまり名月うつる塾帰り 大垣市 水野 翔翼(中二)
 秋の星雲にかくされなお光る 大垣市 川尻 千尋(中二)
 林檎が落ちれば私も恋に落ち 美濃加茂市 荻谷 歩花(中二)
 つづけもじさくらもみじのかげうつす 大垣市 伊藤 穂乃花(小六)
 秋の日は住吉神社包みこむ 大垣市 山田 悠愛苗(小六)
 橋と葉と神社のとりい秋の赤 大垣市 大熊 梓遠(小六)

入選

川向こう友が手をふる秋の昼 大垣市 和田 泰樹(小六)
 秋の川葉を船にして流れゆく 大垣市 羽賀 祐弥(小六)
 道まよいすすきがあつちと道案内 大垣市 炭竈 凜奈(小四)
 ゆげ出てるくりごはんだよみんな来て 大垣市 馬淵 慎也(小三)
 おにごっこもみじいっしょにおいかけた 大垣市 佐藤 新大(小二)
 すべり台どんぐり早くておいつけない 大垣市 かわ村れん太ろう(小二)
 かかしさんおこめをまもるおさむらい 大垣市 あべ えみゆ(小二)
 さんぽ道きんもくせい風の風がふく 大垣市 しのだ ふうき(小二)
 かあさんのかえりをまつよあかとはんぼ 大垣市 こじま たける(小二)
 さむそうにはっぱのきものぬいでる木 大垣市 すす木 しゅうじ(小二)

選者吟

水底の石白くして水澄めり

静子